

	項目名	現状と課題	対応の方向性	具体の取組等	令和5年度の取組予定
1	死因究明等に係る人材の育成	検案医師、歯科医師の確保及び人材育成 ・ 県内の検案の嘱託医師は17名、高齢化が進み、次の世代の医師の確保が課題	・ 検案医の確保・育成 (輪番制の検討 など)	・ 検案医師、歯科医師の確保・育成のための研修等の実施【検案医会、医師会、歯科医師会】 ・ 人材確保・育成のための各地域の取組事例（輪番制の導入等）の他の地域への共有【検案医会、医師会、歯科医師会】	●岩手検案医会研修会の開催（7月下旬開催予定）【検案医会】 ●岩手県歯科医師会法歯学セミナーの内容充実、若年層の参加促進【法歯学、歯科医師会】 ●平時の歯科情報による身元調査を可能な限り歯科医師会警察歯科委員会に委ねる【法歯学・歯科医師会】 ●日本医師会主催の死体検案研修会、死亡時画像診断（Ai）研修会、都道府県医師会「警察活動に協力する医師の部会(仮称)」連絡協議会への参加【医師会】 ●新人常任委員・新人地区委員への研修会の実施【歯科医師会】 ●死者掛かりつけ病院医師（開業医等）に対する積極的かつ継続的な検案依頼【県警】 ●検案医師獲得に向けた開業医への声掛け及び継続的な検案の協力依頼【県警】 ●研修医に対する検案等に関する研修、検案医会や法歯学セミナーのPR【県立病院】 <参考情報> R5.6.15現在における嘱託医師16名

	項目名	現状と課題	対応の方向性	具体の取組等	令和5年度取組予定
2	警察等における死因究明等の実施体制の充実	現病歴情報、処方薬情報の早期把握 ・現病歴・既往歴は、死因を特定するうえで重要な情報であり、早期の把握が必要	・現病歴情報等の把握状況の確認及び整理	・検案及び法医学解剖時に必要な医療情報の整理【医大、県警、海上保安部】 ・検案及び法医学解剖時に医療情報提供に関わる全国的な動向の把握・法的根拠の整理【県警、海上保安部】 ・医療情報提供に係る具体の事例（提供可、提供不可の例）を踏まえた課題等の整理【県警、海上保安部】 ・医療情報の提供に係る県内の主要な病院に対するアンケート等の実施【医大、県警】 （必要な医療情報項目及び依頼文書を提示し、医療機関が情報提供するために必要な事項を確認、休日対応の可否・休日に提供可能な事項の確認）	●検案、法医学解剖時に必要な医療情報の整理【法医学、検案医会、海保】 ●法医学解剖で医療情報がうまく得られなかった事例の整理【法医学、県警】 ●可能であれば医療機関へのアンケートの実施【法医学】 ●市町村ごとでの住民の歯科情報集約（レセプトからの簡潔な情報の集約）への試み【法歯学】 ●医療機関ごとの情報提供方法の整理【県警】

	項目名	現状と課題	対応の方向性	具体的取組等	令和5年度取組予定
3	死体の検案及び解剖等の実施体制の充実	検案医師、歯科医師の確保及び人材育成（再掲）	・検案医の確保・育成	<人材の確保・育成（再掲）> ・検案医師、歯科医師の確保・育成のための研修等の実施【検案医会、医師会、歯科医師会】 ・人材確保・育成のための各地域の取組事例（輪番制の導入等）の他の地域への共有【検案医会、医師会、歯科医師会】	
		大規模災害時の対応 ・東日本大震災津波の教訓を踏まえた連携体制の維持と災害等の状況の変化に応じた定期的な見直しが必要	・大規模災害に備え、より多くの医療従事者の訓練参加 ・市町村の状況確認と防災担当課との連携のあり方を検討	<大規模災害時の対応> ・大規模災害に備えた災害対応に係る資質向上のための医療従事者の訓練参加【検案医会、医師会、歯科医師会】 ・日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震などの大規模災害発生時における死因究明・身元確認体制の確認【医大、市町村、県】 （日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の被害想定の整理、災害時の連携体制の確認、各地域の遺体安置所設置可能箇所及び死因究明・身元確認に必要な機材の準備状況の確認）	●東北管区広域緊急援助隊北部三県合同訓練(7月実施予定)【法医学、検案医会、歯科医師会】 ●岩手県総合防災訓練への参加(7月実施予定)【法医学、法歯学、医師会、歯科医師会、県警】 ●市町村単位での災害訓練の企画【法歯学】 ●岩手県地震・津波被害想定調査報告書の被害想定を前提とした調査【法医学】 ①遺体安置所を同時に多数箇所設置する体制に関する調査 ②遺体安置所設置に関わる市町村の準備状況 ③死因究明に必要な備品数の調査 ④現状で岩手県内の各機関が保有する死因究明備品数の調査 ⑤検案医の派遣元に関する調査 ●岩手災害医療ロジスティクス研修への参加【医師会】 ●歯科医師会法歯学セミナー、身元確認作業の合同訓練への参加【歯科医師会、海保】 ●日本法歯科医学会学術大会への参加(5/14)【歯科医師会】 ●多数死体取扱い時における装備品の点検確保と必要な装備品の更新【県警】

	項目名	現状と課題	対応の方向性	具体の取組等	令和5年度取組予定
4	死因究明のための死体の科学調査の活用	死亡時画像診断の実施率の向上 ・死亡時画像診断の実施率（県警）は、過去10年で2017年の33％が最高値で、これ以外の年は約30％前後で推移。より正確な死因判断のため実施率の向上が必要	・死亡時画像診断が必要な例の整理 ・地域ごとの現状把握	・死亡時画像診断が必要な事例の整理【県警、医大】 ・死亡時画像診断の活用・有用性について検案医師、歯科医師への勉強会等を実施【医大、検案医会、医師会、歯科医師会、県警】 ・死亡時画像診断に係る地域ごとの現状・課題を整理し、死亡時画像診断の実施体制の充実に向けた対応策を検討【医大、医師会、歯科医師会、県】	●死亡時画像診断が必要な事例の整理【法医学、県警】 ●県内各地域ごとの死亡時画像診断の実施状況の調査【法医学、県警】 ●死亡時画像撮影が可能な病院の把握【県警】 ●全ての歯科的死後記録採取においてX線画像撮影実施を必須とする【法歯学】 ●ポータルレントゲンの整備（県で1台しかない歯科医師会のレントゲンを警察官が現場に運んでいる状況のため、平時・有事に円滑に使用できるように整備を行う）【歯科医師会】 ＜参考情報＞ ・画像実施率26％（2021年）→31％（2022年）

	項目名	現状と課題	対応の方向性	具体的取組等	令和5年度取組予定
5	身元確認のための死体の科学調査の充実及び身元確認の円滑化	身元確認の円滑化 ・通院（歯科）履歴の判明により、死者の身元特定を迅速に行うことが可能であることから、生前情報の収集が重要 ・東日本大震災津波の教訓を踏まえた連携体制の維持と災害等の状況の変化に応じた定期的な見直しが必要	・通院先（歯科）把握の状況の整理	<身元確認の円滑化> ・身元確認の円滑化に向けた歯科情報の収集の検討【医大、歯科医師会】	●死者に対する候補者の生前通院先を知るための方法確立させる（主にレセプト情報から）【法歯学】 ●大規模災害に備えた生前記録のクラウド化等の対策【歯科医師会】
		大規模災害時の対応（再掲）	・大規模災害に備え、より多くの医療従事者の訓練参加 ・市町村の状況確認と防災担当課との連携のあり方を検討	<大規模災害時の対応（再掲）> ・大規模災害に備えた災害対応に係る資質向上のための医療従事者の訓練参加【検案医会、医師会、歯科医師会】 ・日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震などの大規模災害発生時における死因究明・身元確認体制の確認【医大、市町村、県】 （日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の被害想定整理、災害時の連携体制の確認、各地域の遺体安置所設置可能箇所及び死因究明・身元確認に必要な機材の準備状況の確認）	

	項目名	現状と課題	対応の方向性	具体の取組等	令和5年度取組予定
6	死因究明により得られた情報の活用	<div>・死亡時画像診断や解剖結果を県医師会、県歯科医師会等への共有し検案医師、歯科医師の資質向上に活用</div> <div>・児童虐待が疑われる事案に係る児童相談所等への情報共有と連携</div>		<div>・死亡時画像診断や解剖結果の検案医師や歯科医師の研修等への活用の検討【医大、検案医会、医師会、歯科医師会】</div> <div>・各種会議等を通じた児童相談所との情報共有・連携【医大、県】</div>	<div>●岩手検案医会研修会、岩手県歯科医師会法歯学セミナー等における事例報告【法歯学】</div> <div>●法歯学セミナー、身元確認作業合同訓練における歯科医師のポータブルレントゲンの使用方法の習得【歯科医師会】</div> <div>●警察官への口腔内写真の撮影方法の習得【歯科医師会、県警】</div>